

海老名市民生委員・児童委員だより  
支え合う 住みよい社会 地域から

# ふれあい

Vol.98  
令和7年7月1日

発行  
海老名市民生委員児童委員協議会  
〒243-0492 海老名市勝瀬175番地の1  
☎046-235-4820(福祉政策課)



令和7年度  
海老名市民生委員児童委員協議会  
全体研修会(教育長の特別講演)

令和7年4月23日、海老名市民生委員児童委員協議会総会が海老名市役所において開催されました。同日総会後に全体研修として教育長の特別講演が行われ、「市教育委員会の取



伊藤教育長による特別講演

り組みについて」の説明を受けました。

令和7年度  
海老名市民生委員児童委員協議会  
全体研修会(教育長の特別講演)

～違いを学びさらなる活動の充実を～

那須塩原市民児協連合会と海老名市民児協との意見交換会が行われました

令和6年10月22日、栃木県那須塩原市民生委員児童委員協議会連合会より11名の委員が海老名市を訪問され、海老名市民児協の代表者(6地区の会長、副会長)との意見交換会が行われました。テーマは、協議会としての活動の様子、活動が活発な地区の事例報告、防災活動について、児童委員としての民生委員活動、マンションへの対応について等。それぞれの取り組みについて活発な意見交換がなされました。

海老名市民児協の田中昭雄会長からは「那須塩原市は海老名市の22倍の広大な面積があり、酪農家の委員もいて、空き時間を利用して働きながら工夫して活動をしている。海老名市とは組織も活動内容も違う部分があるが、全国の仲間がいるんな活動を頑張っているのだと実感できた貴重な時間だった」とのコメントをいただきました。



前列中央右 那須塩原市民児協連合会 大森会長  
同左 海老名市民児協 田中会長

## みんな

「ふれあい」活動できる環境で地域に根付く

こんにちは。南部地区は田畑農地が広がる地域ですが、近年では物流倉庫が建ち並び、スーパーや飲食店が少なくなり、少し生活に不便さも感じられるようになりました。南部地区でも「高齢化」の文字は避けられません。委員の日頃の活動も多様し、時に対応に悩むこともありますが、市民を行政や関係機関へつなぎ役の民生委員が立ち止まっただけでは問題解決にはなりません。委員同士が協力し、コミュニケーションを取り、事例検討を通して情報を共有することが委員のスキルアップや更なるサポートにつながると思います。

就業しながらの委員も多く、委員のなり手の確保も難しい現状ですが、「就業しながら・介護しながら・育児しながら・しながら」でも活動ができるように、会議の在り方を見直し、ICT活用・行政や関係機関との連携を取り、地域に根ざしていきたいと思えます。

「心配ごと・悩みごとをひとり抱えていませんか?」私たち民生委員・児童委員にお気軽にご相談ください。



海老名市民生委員児童委員協議会  
南部地区会長 金子 幸枝

## ふれあい防災特集

### 地域を知る



海老名の地形は「相模横山九里の土手」と言われるように東部は台地であり、西部は相模川の堆積地からなる低地で、昔から台風や豪雨による相模川の氾濫が繰り返されていました。

海老名の地形は「相模横山九里の土手」と言われるように東部は台地であり、西部は相模川の堆積地からなる低地で、昔から台風や豪雨による相模川の氾濫が繰り返されていました。

城山ダムの建設後もダム放流による河川地域の氾濫は不安視されており、令和元年の大雨で市内に避難所が開設された際は、相模川に近い地域の避難所の小・中学校に大勢の市民が集まり、校庭は自家用車でいっぱいになりました。また令和6年の台風では杉久保北地区で土砂崩れも起こっています。



危機管理課に伺ったところ海老名市は地震発生時も津波の心配はないと言えるが、昨今の集中豪雨の際は相模川の氾濫だけでなく、土砂崩れや内水氾濫の心配があるとのこと。市内では中部地区や中央地区の住宅地だけでなく東部地区でも新たに戸建てが増えています。今いちど皆さんがお住まいの地域について、ハザードマップ(海老名市防災マップの冊子版、スマホ版)を確認してみてください。

### 地域で学ぶ

市内の自治会や学校では防災訓練、避難所運営訓練が毎年開催されています。「一度参加したことがあるから大丈夫」と言われることもありますが、「参加した」のは訓練のこと。実際に災害が起きたときに自然と対処できるように楽しみながらも何度でも経験したいものです。海老名駅周辺では高層マンションも増えつつありますが、自治会がないマンションでは管理組合が単独または合同で防災訓練を行っています。



北部地区  
高層マンションでの  
防災訓練

### 地域とのつながり

災害時にライフラインや通信手段が途絶えたとき家族以外に近くに知り合いがいることは心強いものです。近年の大震災では、がれきの中からご近所さんに助け出された例が多く報告されています。また普段からご近所と顔見知りになっていることで平時では防犯にも役立ちます。高齢になって活動ができないから自治会をやめるといふ話も聞きますが、自分の状況を周りの人に知ってもらうためにも、地域とのつながりを持ち続けてほしいものです。

3回にわたってお届けすることになった防災特集。防災について学びながら、自分や大切な人の「いのち」についても考えさせられる機会になりました。

### お知らせ 地区の民生委員・児童委員が新たに選任されました

地区	氏名	電話	担当区域

#### 編集後記

「ふうちゃん」、愛犬との散歩中に声を掛けてくれたのは担当地域の高齢者の方。時にはしゃがみ込んで可愛がって下さいます。

お元気な姿を見てこちらでも一安心。心がほっこりするひとときです。



令和6年度  
社会福祉功労者(感謝)の表彰  
受賞された方 大本 忠さん

「ふれあい」点字版・音声版  
文字が見えにくい方にお送りします。  
(連絡先) 斉藤宏子 ☎046-233-8200

### お知らせ ~日頃の民生委員の活動を 知っていただくために~

民児協では今年も11月16日(日)開催の「えびな市民まつり2025」(会場:海老名運動公園体育館)に参加を予定しています。当日はお子さまお楽しみコーナーもあります。



民児協のHPがQRコードから簡単に見られます。是非、アクセスしてください。



# 更生保護女性会の活動

民生委員・児童委員は  
更生保護女性会の活動を支援しています

更生保護女性会（通称「更女」）とは、犯罪や非行から立ち直ろうとする人たちを支えるとともに、非行を生まない地域づくりに向けて様々な活動を行うボランティア団体で、全国に約1300の地区会があります。具体的な活動は会員の住む地域（地区会）を単位に行われています。

海老名地区更女は、女性の保護司と女性の民生委員・児童委員などで構成する会員約120名のボランティア団体です。主な活動は、保護司6名と各民児協から推薦された6名の委員で構成する役員会が担っており、更生保護施設への支援、社会を明るくする運動、子どもたちとのふれあい活動を関係団体と連携しながら進めています。

## 更生保護施設への支援

海老名地区更女は、小田原にある更生保護施設「報徳更生寮」を支援しています。①夏と冬に衣料品や日用品など、会員の皆さまからいただいたものを提供、②あられやビスケットの販売で得られた資金を「愛の寄贈」として寄付、③月1回「絵手紙」活動の実施などです。

「絵手紙」活動では季節の野菜や果物を報徳更生寮に持参してハガキに描いてもらいます。墨で輪郭を描き顔彩で色付け、今の思いをひと言ハガキに添えてもらいます。その後、出来上がったハガキを皆で見て、良いところを褒め合います。この褒め合いは、褒めてもらったという思いが認められているという自信につながり社会に出てから頑張れる原動力になるのだと、20年以上絵手紙講師を続けている先生から伺いました。誰でも褒めてもらおうと嬉しく力が湧いてきますよね。私はこの「ほめる会」で何か心に残るような言葉が伝えられたらいいなと、そんな思いで寮生に話しかけています。



「絵手紙」活動

## 社会を明るくする運動

この運動は法務省が主唱するもので、7月が強調月間となっています。この時期に保護司、更女その他、多くの関係機関が一丸となり犯罪抑止の啓発活動を行います。海老名駅で街頭啓発を行ったり、薬物防止の講演会に参加したりしています。

## 子どもたちとのふれあい活動（「折り紙教室」に初トライ）

私たち更女で非行防止や健全育成の観点から子育て支援で何かできないか検討し、令和6年夏休み期間中に学童保育クラブ（以下、学童）で「折り紙教室」を開催しました。まずは役員自宅付近の学童に依頼し、9つの学童で実施することになりました。「折り紙教室」では、子どもたちに犯罪や非行はいけないこと、平和が大切であることを伝え、折り鶴を折りながら子どもたちの声に耳を傾け、幸せのエッセンス（認め、ほめる）を贈りました。また子どもたちが折った鶴で千羽鶴を作製し、海老名市戦没者追悼式に捧げることができました。身近な学童と交流し、子どもや保護者に更女の活動を知ってもらうことができ、大変有意義な活動ができたと思っています。

その他にも、研修会や刑務所の視察研修、役員勉強会として裁判所の見学・傍聴などを行っています。様々な事業をメンバーと楽しみながら活動でき、充実した時間が過ごせていると感じています。

最後になりましたが、海老名市民児協の皆様には、衣類提供やあられ・ビスケットのご購入に感謝いたします。

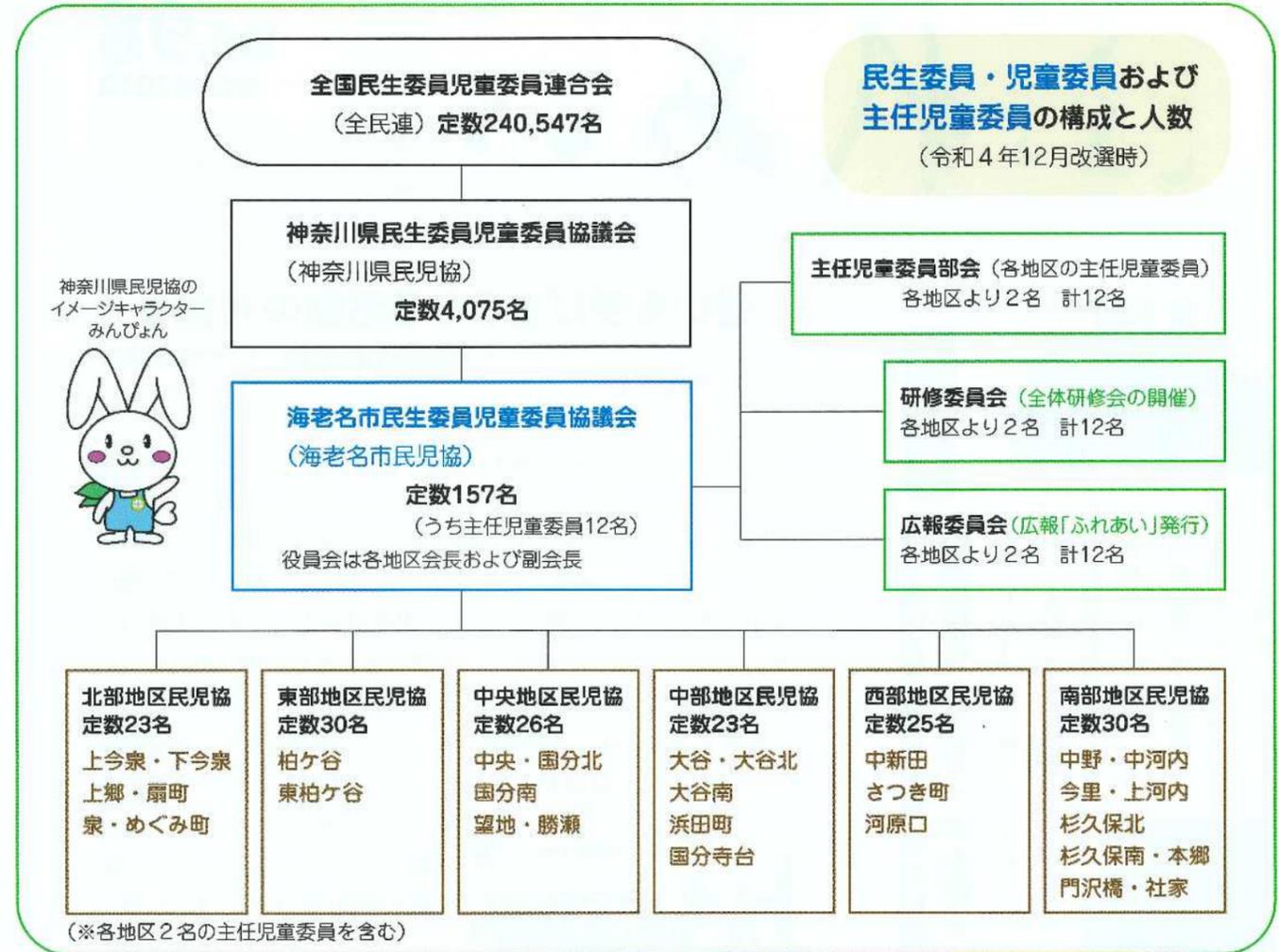
西部地区 浜田宏美



「折り紙教室」

# 全国で24万人、海老名市で157名※の民生委員が活躍しています

（※主任児童委員12名を含む）



～読者の皆さまよりいただく感想はいつも私たちの励みになっています～

## 広報委員会の活動

「私たちが広報委員は、民生委員・児童委員の中から、各地区より2名、計12名で活動しています。前回の改選時（令和4年の12月）よりこのメンバーで活動を開始、「ふれあい」94号より年2回の発行を担当しています。」

広報委員会の報道の支柱は、市民児協の活動方針に沿い、民生委員・児童委員の活動をより広めること、そして日常生活の時宜にかなった、人が生きる上での普遍的テーマを問うところにあります。

月1回から2回の委員会では、私たち自身で企画・編集・校正を行います。「問いかけ」・「理解」・「気づき」を通して、ともにいきいきと喜び合う暮らしづくりの一助になることを目的として、読者である市民の目線に立って、より読みやすく、分かりやすい、親しみやすい紙面づくりを念頭において実際の取材・執筆活動をすすめてまいりました。

毎号の企画での主要テーマ決め、その掘り下げ、編集・校正での一字一句の言葉選び等、「ふれあい」づくりは私たちにとっても「自己錬磨の場」となりました。そしてそれらを共有することで民生委員・児童委員として知見を深めることができました。

私たちの携わった「ふれあい」が読者の皆さまの目に留まり、ささやかでもお役に立てることができれば幸いです。

広報委員会 委員長 濱田正夫



私たち広報委員は、民生委員・児童委員の中から、各地区より2名、計12名で活動しています。前回の改選時（令和4年の12月）よりこのメンバーで活動を開始、「ふれあい」94号より年2回の発行を担当しています。

広報委員会の報道の支柱は、市民児協の活動方針に沿い、民生委員・児童委員の活動をより広めること、そして日常生活の時宜にかなった、人が生きる上での普遍的テーマを問うところにあります。

月1回から2回の委員会では、私たち自身で企画・編集・校正を行います。「問いかけ」・「理解」・「気づき」を通して、ともにいきいきと喜び合う暮らしづくりの一助になることを目的として、読者である市民の目線に立って、より読みやすく、分かりやすい、親しみやすい紙面づくりを念頭において実際の取材・執筆活動をすすめてまいりました。

毎号の企画での主要テーマ決め、その掘り下げ、編集・校正での一字一句の言葉選び等、「ふれあい」づくりは私たちにとっても「自己錬磨の場」となりました。そしてそれらを共有することで民生委員・児童委員として知見を深めることができました。

私たちの携わった「ふれあい」が読者の皆さまの目に留まり、ささやかでもお役に立てることができれば幸いです。

広報委員会 委員長 濱田正夫

